

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101044		
法人名	株式会社メデカジャパン		
事業所名	大津ケアセンターそよ風		
所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目18-20		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は、無理をすることなく、自分のペースでその人らしい生活を安心して送っていただける事に重点をおき、職員は常に明るく入居者に寄り添い、サービス・支援を行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-shiga.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570101044&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成22年11月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(株)メデカジャパンは全国に149の施設を開設し、蓄積されたノウハウと強い経営基盤を持っている。その組織をバックボーンとして大津ケアセンターそよ風はデイサービスとともに当グループホームを運営している。立地も瀬田川畔から少し入った静かな住宅地の一角にあり広めの敷地に2階建てのゆったりした建物と竹林、果樹園や花畑等もあり、どこか懐かしい雰囲気がある。職員一人ひとりが明るく笑顔が心がけ、ゆったりと利用者に向き合うことで質の高いサービスの提供に努めている。グループホームは一世帯として自治会に加入していて、運動会、清掃活動、文化祭、夏祭りへの利用者の参加および運営推進会議や事業所行事への自治会長や役員の参加、敷地内の花畑の手入れ支援等双方向の交流が行われている。地域と共に利用者を支える関係づくりに積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関・事務所・リビングに掲示している。全体の朝礼でも毎日唱和し、職員全員が共有している。さらに、グループホーム独自の理念も作り実践につなげている。	独自の理念として「ゆったりとした時の流れの中で当たり前普通に暮らしたい、ひとりではなく仲間や地域のふれあいを大切に助け合いながら暮らしたい」を掲げ、日々のケアや地域との交流に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりに重点をおき、出来る限り、運動会・清掃活動・夏祭り・文化祭などの行事に入居者と共に参加をし交流している。	自治会行事へ参加し、運営推進会議に自治会役員が出席するだけでなく、ホームの行事を回覧板で案内して貰ったり、地域住民の参加も得ている。時に保育園児の訪問もある。地域の介護相談に乗るなど交流は深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所では、居宅介護支援事業も手掛けており、認知症や介護に関する地域の相談窓口を設けている。施設の間を提供し認知症サポーター講座を実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族・自治会長・包括センターの出席を得て、入居者の現状を報告、日常の取り組みや、行事予定を報告している。相談や意見を求めると共に協力をお願いし、サービスの向上に活かしている。	開催は年4回である。ケアや行事の計画、報告に留まらず運営の方針や更なるサービスの質の向上を求める意見も活発に出ている。外部評価の結果も報告している。必要な対応策はミーティングの中で検討している。	内容も充実しているだけに2ヶ月に1回、年間6回の開催を励行する事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大津市介護保険課に連絡・相談し、助言を受けている。地域包括センターには、運営推進委員会に出席願う実情を伝え、助言を受けケアサービスに活かせるように努力している。	大津市介護保険課には各種手続きの助言や指導を得ている。地域包括支援センターとは運営推進会議に出席を得るとともに情報や助言を受けたり、時には職員の研修を頼まれたりする関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解している。止むを得ず緊急的に拘束を行う場合は、職員間でケアカンファを行い、家族に十分な説明をし「同意書」を頂いている。玄関は、防犯上施錠しているが、すぐ横が事務所であり入居者の希望を聞くことが出来る体制をとっている。	職員は全員が研修を受け拘束の弊害を正しく理解している。玄関には押しボタン式のロックが付いている。脇に事務所があり、通常昼間は解錠、夜は防犯上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加、又、事業所内部にも事故防止委員会を設け防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている方もおり支援している。 研修や勉強会にも、積極的に参加をしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	こちらから必ず不安や疑問について尋ね気軽に話せる雰囲気を作るようにしている。疑問は、解りやすく丁寧に説明し納得していただけるように心掛けている。不安は、少しでも改善されるように助言をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見、要望を話せる機会を設けている。意見は、職員のミーティングで話し合い反映できるよう努めている。	家族の来訪時には管理者や職員も話を聞くように努めている。運営推進会議でも活発に意見も出されており、全て記録しミーティングで検討している。苦情受付窓口は契約時に事業所、外部共明示し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き、会議で意見交換や情報収集をしている。事業所内の全体会議で情報共有の場を設けており継続的に取り組んでいる。議事録を回覧し職員全員が周知するように努めている。	月に1回全体会議があり、職員は活発に意見を述べている。別途に6ヶ月に1回個人面談がある。入浴時の2人介助の対応の拡大や休憩の取り方等取り上げ、改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況を把握し、職員の個々の自己啓発を推奨しており評価している。自ら希望する研修には勤務を考慮し参加できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・中途採用者育成のため、OJT研修シートを作成し個人育成の計画に沿った指導研修を行っている。全職員対象の社内外部の研修には可能な限り参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報や各種研修の案内を受けており、参加している。会社組織として京滋ブロック・近畿支社における内部交流研修があり、他の事業所についても学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に来訪・見学して頂き、自分の事を話せる雰囲気を作り、ゆっくり話せる場を設け傾聴している。常に本人の立場に立ち考えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時からしっかりと話しを聞き対応している。専門的立場からの助言も行い、不安の軽減を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける窓口があり、専門的な立場からの助言も実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で入居者の淋しさや喜びを共有できるよう、常に密着し心の動きを掴めるように努めている。料理や遊び趣味を通じて生活の知恵を教えて貰う事も多く支え合う関係を構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族双方からの話しを聞き、互いの関係を理解する事で今までと同様の関係が築いていけるよう支援している。家族の思いや、悩みを職員全員が理解しておくよう会議等で話し合い周知している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部への手紙や電話は自由であり外出もできる。原則、面会時間の制限も無く受け入れており、社会生活との関わりを持てるよう支援している。	利用者の友人等面会者には時間の制限なく対応している。墓参り等は家族が対応、買い物等は車で職員が支援している。以前からの美容院に通う利用者もいる。できるだけ利用前の関係を継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握しており、皆さんと一緒に過ごす時間を作るよう、毎朝の体操・レクを行い同じ時間が共有できるよう支援している。個人の出来る事への配慮もし孤立することのないよう声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談を受けたときは、専門的な立場から助言をしている。電話にて様子を聞く事もある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや要望が把握できるよう1対1で話を聞く機会を作り、少しでも本人の望む暮らしに近づけるようにプランを立てている。意思疎通が困難な方は、日々の暮らしを見て本人本位のプランを立てている。	利用者とゆったりと向き合う中で意向を掴んでいる。入浴中や寝る前の居室での何げない一言等からも把握している。職員との相性もあり、思いの表現を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞き、センター方式シートの記入もしてもらい把握に努めている。又、利用されている事業所のケアマネに連絡し情報提供を受けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は個人の人権を尊重しながら、日々の記録・観察を行い現状を把握し、その方らしくゆっくりと安全に気持ちよく1日を過ごせるよう援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度会議を行い、ケアプランの見直しを実施している。家族にも前回のプランの評価を説明し意向を聞いている。見直しが必要になれば、都度本人の意向を聞き、家族とも相談確認を取りながら実施している。	チーム会議を開き、本人、家族の意見や介護記録を参考に協力医、職員の意見を加えて計画担当者が介護計画書を作成する。家族に報告し確認印を貰っている。毎月モニタリング、カンファレンスを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・排泄状況の記録・日中/夜間の状態や様子を個別に記録し、プランのモニタリングを日々行っている。1ヶ月毎にミーティングで話し合い、職員間で共有・周知し統一した介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行政への手続きや、備品の購入など入居者やご家族の要望には、出来る限り応じるように努めているが、多様なニーズに対応できない事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と共に自治会の清掃活動に無理をすることなく楽しみながら参加し、地域に貢献していることを自覚してもらい、自信に繋がるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望されるかかりつけ医を受診していただくよう支援している。また、つき一回提携医による定期往診を受け入居者の日ごろの様子や変化を医師に伝え、健康管理について指示・指導を受けている。	本人、家族の意見を聞き、かかりつけ医の継続診療を支援している。入居前からのかかりつけ医を継続しているのは現在1人である。契約医は月に1回往診している。その結果については家族に報告し確認印を貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制での訪問看護との契約をしており、週2回の訪問時に個々の健康状態について報告し相談、指示を仰ぎ管理している。急変時には連絡を入れ、都度指示を仰ぎ適切な対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネを中心に病院関係者との情報交換を行なっている。ケアカンファなど、話し合いの場にも参加し情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その方にとっての安心・安楽は何であるかを常に職員間で話し合い「できること・できないこと」の見極めを行っており、提携医・看護師との連絡も密にし指示を仰いでいる。家族と今後について話し合いの場を設けている。内容は、家族に署名捺印を頂いている。	看取りはしていない。契約書の「契約の終了条項」に記載している。重度化した場合の対応については何度も家族と話し合い、文書にして確認印を得ている。退所先については関係先とも連携し、相談や必要な援助はできる限り行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり研修に参加しているが、定期的な訓練の実施には至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導協力を得て、年2回避難訓練を実施している。夜間は職員が2名になるため、夜間を想定した避難訓練に重点を置いている。更に運営推進会議などで、地域の協力が得られるようお願いしている。	消防への直通電話、火災警報機、スプリンクラーを設置し、災害用備品も備えている。年2回消防署の立ち合いの避難訓練では夜間を想定して実施している。ベランダを一時避難場所とし、救助を待つようにしている。	災害時には自治会の協力が得られるよう運営推進会議等ようお願いと了解が得られているが、更に進めて自治会の自主防災組織を連絡網とする了解や、訓練への参加を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の今までの生活習慣を大切にし、性格を把握したうえで、他の入居者との関係を損ねることのないように一人一人に合った言葉かけをし対応している。自尊心を傷つけないようさり気ない言葉かけを心掛けている。	個人情報保護法について職員への研修を行ない、守秘義務は契約事項でもあり、プライバシー保護の徹底を図っている。関連ファイルはロックできる書棚に保管している。日常の言葉掛け等にも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族と同様、職員が寄り添いながら話す機会を作り、自己決定ができるよう支援し、安心して暮らせるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のできる事・できない事を踏まえた上で、無理強いする事なく、やりたい事をやりながら過ごしてもらえるように支援している。又、体調を考慮しながら買い物や外出などの希望にも添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が常に鏡を見て自身の身なりを確認できるように配慮している。1ヶ月に1度訪問整容サービスを提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、食事の用意・配膳・盛り付け・後方付け等をお願いし、職員と共に行っている。誕生日会や行事の日には、いつもと違う食事を用意し楽しんで頂いている。	支社から送られてくる献立をもとに職員が食材、味付け等一部アレンジして調理している。職員も介助しながら一緒に食べている。殆どの方が完食している。誕生日、敬老の日や花見等には特別な食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を職員が把握し、その方に合った食事を提供し支援している。都度の食事量や水分量がすぐに分かるよう記録に残し状態に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず声をかけ、個々の力に応じた内容の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに記録を残し、パターンの把握に努めている。トイレでの排泄を心がけ自立支援を行っている。必要に応じ随時トイレ誘導を行い失敗につなげないよう支援している。	排泄の記録をとり、職員は利用者個々のパターンを把握している。それに合わせてトイレ誘導等自立支援を心がけている。何人か便秘気味の利用者もあり、契約医や訪問看護師とも相談し対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分量を記録し、一人ひとりの体調や排便状況を職員が把握しており、予防や対策について訪問看護師に相談・指示を受け実践している。日課に体操を取り入れできる範囲で動いてもらい予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は一応定められているが、入居者の要望や体調に合わせてゆったりと、個々に楽しんで入浴してもらえるように支援している。介助により清潔保持に努めている。	各ユニットに2浴槽の広めの浴室がある。毎日湯を沸かし、利用者の体調や希望に合わせて入浴して貰っている。時には2人で入ることもある。人によっては2人介助も必要だがゆっくりと楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の時間の使い方は自由である。孤立する事のないように声をかける事はあるが、無理強いする事はなく、部屋でゆっくりできる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に目を通しており薬について勉強している。服薬の確認を記録し、ミスの無いよう努めている。服薬後の変化については、その都度職員が状況を記録し医師・看護師に連絡を入れ調整がなされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫・掃除・食事の準備や片付け・編み物など、一人ひとりの得意とすること、興味のあること、出来ることを把握し、楽しみながら出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望や体力・体調にあわせ散歩に出かけたり、買い物に行くなどの支援を行っている。また、家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	家族から外出の機会を増やして欲しいという指摘もある。天気の良い日には散歩や買い物に出かける等しているものの、車椅子の利用者も増えており介助や安全の事もあり、少し頻度は以前に比べ減っている。	体力の維持、五感の刺激は大事である。全員一律の対応で無く、利用者の体力、体調に合う行き先、コースを工夫して外出を増やす支援策の検討と実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により買い物に出かけ、好きなものを自分で選び、力に応じて支払いが出来るようさりげない言葉をかけ、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りは自由であり、事務所の電話をいつでも使用できるようにしている。年賀状や暑中見舞いなど本人が書けるよう声をかけ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用場所は全てスペースに余裕があり、明るく清潔である。リビングに入居者の作品を飾ったり、花壇の花を自分たちが摘んで来て生けたりと心地よく過ごせる工夫をしている。音楽を聴いたりテレビを見たりするが音量には配慮している。	共用場所はスペースを広くとっており、明るく整頓されている。ベランダもリビングに続くゆったりできる空間である。その中に利用者それぞれ居場所を持っている。随所に利用者の作品や写真も掛けられ和みの演出がある。トイレも浴室も清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が居室やリビング以外で過ごせる場所を数箇所確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が馴染みの品物を持ち込み自分の好みに合わせそれぞれが快適に心地よく過ごせる工夫をしている。	各居室には馴染みの家具や持ち物、中には仏壇も置いてあったり、写真や自分の作品などを飾り利用者それぞれが心地よく過ごせる工夫がある。窓からの景色も裏山の竹林や果樹、花等に季節を感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	暖簾をかける・トイレや風呂場の表示をする等の工夫をしている。建物内はバリアフリー・手すり・車椅子対応トイレなどの完備により、できることを行いながら身体機能を活かし安全に生活を送れるよう支援している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が2ヶ月に一回、年間6回の開催ができていない。おおむね3ヶ月に一回、年間4回の開催となっている。	2ヶ月に一回、年間6回の開催を行う。	偶数月(2月・4月・6月・8月・10月・12月)第2日曜日を開催日と決め実行していく。	12ヶ月
2	34	急変・事故発生時の応急手当、初期対応の訓練及び研修を定期的に行えていない。	訓練・研修を全ての職員が受ける。	内部・外部の研修に定期的に参加。救命救急師による実践演習講義の開催。	12ヶ月
3	35	自治会での防災・防火訓練に特定の職員しか参加できていない。防犯・防火の執行部役員との連絡ができていない。	自治会での防災・防火訓練へ順次職員が参加をする。	自治会での訓練への参加。青年団等の組織はないため、防犯・防火の役員との連絡をとり協力をお願いをする。(新規役員)	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。